

NO. **20**  
平成5年度版



# ITSUMIKAI

広島工業大学建築学科同窓会.....五 三 会

# 目 次

ごあいさつ .....	2
学科・改組・転換 .....	7
OBだより .....	15
第18回コンペ入選発表 .....	18
第18回コンペ審査講評 .....	23
第19・20合併記念コンペ作品募集 .....	26
建築学科ゼミ紹介 .....	28
1992年度卒業予定者一覧表 .....	30
広島工業大学建築学科教員及び非常勤講師名簿 .....	32
母校キャンパス案内 .....	33
第25回(平成5年)総会のお知らせ .....	35
五三会活動報告 .....	36
五三会収支決算報告 .....	37
五三会会則 .....	38
五三会第20号(平成5年度版)スポンサー一覧 .....	40
編集後記 .....	42

# ごあいさつ

顧問あいさつ

## 平成5年からの旅立ち— 広工大そして建築学科



五三会顧問 椋代 仁 朗

1993年の新しい年を迎え、皆様方にはそれぞれの希望・期待を胸に、着実に前進を続けられていることと思います。

さて、国内経済の見通しは明るいようでもありそうでもない、また、世界平和の見通しも同様で、すべて何となく混沌とした状況のもとにあるように思えてなりません。しかし、混沌はその中から新しく、輝かしいものの誕生を秘めているとも云えます。これに期待しましょう。

一方、教室はもとより、学内は唯今大変多忙を極めております。それは新学部・環境学部の今年度開設（この件につきましては、別途稿を改めてご紹介しております）と、文部省設置審の大綱化を受けての学内改革のためであります。広島工大は、2学部となり、平成6年度よりの出発を目指して、工学部に於いても土木工学科の改変、再構築、一般・基礎の先生方の学科（ここでいう学科では、その教育目標・理念に沿って、入学から卒業まで、即ち教養から専門まで一貫した教育がなされます。これまでの専門課程のみを意味する学科ではなくなります。そして新しい環境デザイン学科は将にそのように教員組織が構成されております）への分属、そして、未来指向と現状反省にもとづく教育改善等々、数多くの問題を抱えている現状です。そして、これらの努力は自主改革の為の何ものでもありません。

この様に、皆様方の母校は大きく自からの力・エネルギーで装いを変えようとしております。どうか、五三会におかれても温かく見守り、これまで同様のご協力・ご支援を賜わりたいと思います。

現在、広工大建築学科創設30周年記念事業を五三会25周年記念事業と合同で進めております。姿、形は変りましても建築分野はその領域を拡げて不滅です。何卒よろしく願います。



## 会長あいさつ 一つの選択



五三会会長  
三上 明夫 (44年卒)

会員の皆様、お元気ですか。

昨年、バブル崩壊現象が証券業界でおき、そして不動産・金融業界へと広がり、又、佐川急便事件が金権政治を明るみへと引き摺り出し、大きな経済基盤不安現象をもたらす要因となりました。これら一連の社会現象は、一過性の風邪に似た性格として片付ける訳にはいかないようです。

健全なる体にも時として突然病魔が襲いかかる事がありますが、適切な対処をすることで元の健康体へと回復するのが一般的です。

しかし、体全体が衰弱し病原菌に侵される限界すれすれの状態である（一応検査ではかろうじてクリアして健体である）場合処方としては、規則正しい生活リズムを確保する事となるでしょうが、その規則正しい生活が出来ない時、ひとたびテンションの高い鋭角的な攻撃を受ければ抵抗することも出来ず浸蝕が始まり、それは次第に全体へと広がり、最後には健体が病体と化するのです。問題点としては、浸蝕を防御すべく投薬治療をするのですが、その投薬に対する免疫（抗体）が確保されていない場合、例えそれが妙薬であっても使用することは出来ません。回復願望手段が結果として新たな浸蝕を助長し結果として破壊を招くからです。

ある意味での経済大国としてインターナショナルに位置付けられ信頼を得るまでに成長した小さな国「日本」。その見返りとして公害大国というカルテまでも診断されたわが国「日本」。信頼と裏返しの経済援助という要求を満たすべく努力を強いられている黄金の国「日本」。戦後半世紀近い時を経済という二文字を選択し、唯ひたすら成長することのみを考え脳見もせず耐えに耐えて今日の地位を築いてきましたが、その足跡は限りない病原菌（公害）を地球的スケールでばら蒔いて来た歴史でもあるのです。

内部的に回復目的としての治療を必要としているだけでなく地球規模での責務を果たすべく、ある選択を余儀無くされている東洋の神秘なる国「日本」。目に見える回復は遅くとも、根本的に地球環境が回復する方向での

選択が強く望まれている。

パラドックスに言えば地球上のあらゆるものが一つ屋根に住む家族意識のもとと結束する状況に辿り着いた（追い込まれた）わけでもある。因果関係における加害・被害は勿論明確にされなければならないが、同時に明日に向けての原理的選択が必要な時でもある。

このような状況の中わが母校もある選択をした。30年に及ぶ建築学科の流れに区切りをつけ環境というレベルに展開を求める決定をした（改組・転換の項参照）。

もともと建築そのもの自体が深く環境に関わって来たことは異論の無いところであり、又環境を抜きにして建築を論じる事も砂上の樓閣的論法にすぎない。唯、今まで述べてきた社会状況での環境とは段階が違うようである。

環境という言葉を自然・社会の両面に及ぶ環境を含むとして定義するならば全学的な学究課題となってしまう（本来はそうあるべき）。

このことは新学部の今後の展開に期待したいものである。と言うより、むしろ建築学科を卒業した私達が全学的な環境へと展開し得るよう協力していくことが私達への課題でもあるような気がしております。

最後になりましたが五三会は今後も存在し会員の皆様に情報を発信しながら積極的に地域活動に参加し、いづれ果立って来るであろう環境学部の学生諸君をも迎え入れ、より新たな段階へと広がりを持たせたいと考えておりますので、皆様のより一層のご協力とご参加を切にお願いいたします。

新任教員あいさつ  
就任ごあいさつ



助教授 中村 隆夫

平成4年4月、広島工業大学建築学科に赴任いたしました。ここに至る若干の経緯を記すことでご挨拶とさせていただきます。

大学院の修士課程では建築意匠を専攻しましたが、当時は設計で修了する制度がなく、別にプレキャストコンクリート接合部についての研究を行なうことになり、これは関連するプレファブ建築の分野に接するきっかけともなりました。

大学卒業後はゼネコンに就職し、設計部に配属されましたが、そこでは当時、建設現場で半年間研修させる制度があり、入社後即、首都圏近郊の集合住宅（ある企業の社宅）の現場にはいりました。この研修では、普通、管理の一部分を担当しながら施工内容を理解していくのですが、たまたま先輩の現場監督が一人しかいないところであったために、2棟の内、先行施工する棟をその人が管理し、それを見ながら私が一方の棟を管理することになりました。その結果、大体の工事が完了するまで研修期間が一年近くに延びましたが、建物を造る第一線にいる緊張感とともに体得できたことは少なくありません。ただそれと同時に、作業員、現業員、技能員、社員といった身分制度に近いものの存在や多くの産業廃棄物が出てくる様子（環境破壊の一因という認識はしていませんでしたが）は、いまだに心の傷のように残っています。

その後、設計部で住宅や事務所の意匠を担当していましたが、プレファブ一戸建て住宅の開発プロジェクト・チームが発足することになり、それへの参加を勧められました。2年後には約50名の住宅事業部になりましたが、当初は3名しかいなかったもので、私が社外の教育機関で学んできた市場調査・商品企画・生産計画などの内容を即、実践しなければならぬといったことも少なくない状況でした。

こうした中で、建築の設計よりも企画・開発・生産に総合的にかかわる仕事を続けたくなり、住宅事業部ができた時点でコンサルタント会社に転職しました。この会社の顧客の中心は自動車・電機・化学・鉄鋼の企業であったため、製品の開発・コストダウンから省資

源・省エネルギーまで担当することになり、否応なく様々な分野の公害や環境破壊の実態を知るとともに資源・エネルギーの節約はそこから排出・廃棄を減らして公害や環境破壊の対策になりうるという認識を持つようになりました。

そのうち、こうした分野の研究を行なうためには産能大学の研究所が適していると勧められ、再びそこに移りました。産能大学では学生・社会人の教育ばかりでなく企業経営にたいするコンサルティングも行なっており、私自身もまたそれに従事するようになりました。

この頃、建設業におけるTQC活動が盛んになり、建築出身のコンサルタントは他にいませんでしたので、次第に建設企業の経営を見るという機会が増えてきました。この経営を理解するには自ら会社を運営するのが最も早いし、顧客の経営者にたいする説得力にもなるということで、産能大学の方は非常勤講師になってコンサルタント会社を設立し、軌道に乗ってきたところに今回の赴任の話がありました。

このように紆余曲折の多い経緯ですが、新しい環境学部で私の担当が予定されている企画・生産・経営の分野に関することがあるのに不思議な感じさえしております。また、脇道を通ってきたような経験が、これからの教育・研究に多少でも生かされればと思っておりますので、よろしくご挨拶申し上げます。

新任教員あいさつ

## 樹木からの教訓



助教授 野添久視

五三会の皆様はじめまして、この度新しく設置されました広島工業大学環境学部（環境デザイン学科）の建築構造スタッフとして平成4年4月に赴任いたしました。広島工業大学には2年ほど前に開催されました日本建築学会の大会の時に、また広島も数回旅行で訪れましたが、当地での生活を送るのは初めてのことで、どうぞ宜しくお願いいたします。

淡路島で生まれ、神戸大学で学生生活を過ごし、卒業後大阪で建築構造設計の実務に携わり、博士課程（自然科学研究科の先駆け）の設置に伴い母校での教育研究の生活に入りました。このように海の望める関西圏で暮らして参りましたが、生活習慣には共通点も少なくなくあまり違和感なくとけ込めそうな気がします。また、新設学部もわが国初めてであり、自然科学研究科のように環境学部の先駆けとなることと思いますが、模範となるよう努力して行かなければならないと考えています。

最近の建築構造は巨大化し、コンピュータのお蔭でアクロバティックな構造システムでも解析可能となり、高強度材料の使用に伴い、ますます細く薄く複雑になる傾向にあります。一方、自然（例えば樹木など）に目を向けて見ますと、小さなものは細く薄いのですが、大きなものになると太く厚くできており、大型化するとともに柔から剛になっているのが分かります。自然は最近の建築構造の傾向とはまったく逆の形態を示していると言えます。気がかりなのは、部材の応力、変形、強度、靱性を指標とした経済的な設計には落とし穴があるように思えます。構造物がスレンダーになると座屈現象が、塑性を伴う繰返し荷重下では疲労現象が顕在化してくるだろうし、ねじれ現象が構造物の弱点になることも多く、剛から柔になろうとする建築構造にとって何か歯止めのいることを、柔から剛になっている自然から教えられます。

それでは建築構造を剛にするにはどうすれば良いだろうか。例えば部材の断面を大きくしたり、剛性の高い材料を使用すれば解決す

るのですが、重くなってしまうたり不経済になってしまうかもしれません。ところで、樹木は中実な円形に近い断面で構成されており、ねじれや座屈に対して有利な形状であるとはいえ、一見曲げに対して無駄が多く重量も増加しそうですが、電子顕微鏡などで見ると、樹木は樹体を支える木部組織の中に水分が通導できる多孔質構造になっており、骨の組織でも発泡構造が見られ、重量の低減を図っていることが分かります。このような有機的な構造では、組織の一部が座屈しても安定な斜張力場や圧縮しわが形成され、不測の外乱に対して無駄にみえる部分が樹木全体の安定のための余力になっていることを教えてくれます。

建築構造の観点から樹木を眺めてきましたが、自然の地形、風土にあった木が育ち、様々な木々が林へと成長し、森となっている樹木を建築と重ねてみますと、樹木からの環境デザインへの奥深い示唆を覚えます。



新任教員あいさつ  
就任ごあいさつ



助教授 廣川 協一

広島からみますと遙か東方の茨城県つくば市にある筑波大学より、平成4年4月に鶴学園広島工業大学に赴任致しました。

振り返ってみますと、私がはじめて当校を訪れたのは、日本建築学会大会が開催された1990年10月でした。10月とはいえまだまだ日中は蒸し暑く、1号館の4階でのセッションが終わり廊下に出ると、海側からの風がとても心地よく感じられたのを思い出します。なぜそのような事が強く印象づけられたのか、不思議にお思いでしょうが、海からも遠く、地形的にも何の起伏もない地に長く住んでおりましたせいか、海が迫り、山が迫るこの地にへばり着くように建っている校舎に異質のものを感じていた時に海風に吹かれたからなのでしょう。

私が住んでおりました「つくば市」とは、ご存知の事とは思いますが、関東平野のまっただ中に手着かずのまま残された、数少ない広大な雑木林(約2,700ha)を切り開いて、「筑波研究学園都市」として、各省庁の研究機関・施設、高等教育施設等を計画的に配置・建設されてきた都市です。その中に立地した筑波大学、その中でも新しい学問分野である社会工学系に所属しておりました。私が筑波に就職したのは、社会工学の第一期生が3年生になった時でしたから、もう講義の内容も専攻に入り、さらに就職の事も考えはじめる時期だったせいでもあるのですが、当時の社会工学という学際的な学問領域に関する一般社会

の認識度は、それほど高いものではなく、卒業時点での就職先の心配など問題は山積していました。社会工学で学んだ学生が、どういった知識を身につけて世の中に出ていき社会に貢献できるのか、そのためにはどういう人材を育てればいいのか、など機会があるたび討論していました。やはり、事前に討議は十分に重ねられているはずではあっても、社会経済、経営工学、都市・地域計画からなる異質な3専攻によって構成された学際的な領域ですから、実際に稼働してみるといろいろと不都合な所が出てきてあたりまえなのです。その都度、実習の課題の選び方等具体的な問題にはじまり教育方法論に至るまで、時間を忘れ(時には激論となることもありましたが)話し合いがもたれました。しかし、学生も教官もともに「我々がこの分野を確立させるべく先端を走っているのだ」という気構えで、確かに生き生きしていたような気がします。

今回、工学部建築学科の築き上げた大きな足跡のうえに乗り、さらに大きく飛躍しようとしている環境学部環境デザイン学科の教員として、幸いにも第一期生の入学時点からたずさわる事ができうれしく思っております。

新しい分野を確立させていく過程には、先述致しましたように多種多様な困難が伴うのが世の常です。しかし、第一期生の開拓者精神に裏付けされたさわやかな笑顔に勇気づけられ、一つ一つ焦らずに解決すべく微力ながら取り組んでゆきたいと思っております。

学科・改組・転換

## 環境学部・環境デザイン学科の新設と建築学科の行くえ

### 1. はじめに

バブル崩壊による経済不況、佐川急便にからむ政治不信といった国内世情のかげりの中で1993年の新しい年を迎えました。このなかにあつて、新春早々の皇太子妃の内定、貴・曙時代の幕あけは朗報であり、一服の清涼剤でもあったと云えましょう。また、目を国外に転じて、国際情勢の不安定、国内政情の混乱は世界各処にみられて、多くの国民が貧困、飢餓に曝されており、和平の到来にはかなりの道のりがあるように思います。この間、我々を取巻く諸環境にも今なお多くの歪が生じ、地球環境の未来に危惧の念を抱かざるをえない問題が数多く発生しつつあることは周知のことでしょう。まさに、地球上の諸々の環境に注目し、健全な環境の保全に向けて努力を傾注しなければならないときです。この

ような時期に、新設学部（環境学部）が建築デザインを核とする改組転換によって誕生し、認可されたことは、極めて意義深く、時宜を得たものと受けとめております。

この度、五三会からのご要望に応じて、新設学部・新学科の設置申請に深くかかわった私が寄稿させていただくことになりましたが、同窓の皆様方へは、母校建築学科の行くえについてなるべく詳細にお伝えして、将来の発展に向けて、なお一層のご協力・ご支援を賜りたいと思います。

### 2. 新学部設置に至るまでの経緯

これまで本学は、学長の意志により、大学開設以来30年間にわたって工学系のいわゆる単科大学として拡充、発展してまいりましたが、この間にも、大学院の設置をはじめ、文系の短大或いは学部新設構想など、種々の案



が提案されては消え去った様であります。この内、大学院修士課程については既に発足していることを皆様方周知のことと思います。しかし、残念ながら、建築学分野はこの中に含まれておりません。かくするうちに、時あたかも平成4年度を頂点とする大学志望者層(いわゆる18才人口)の減少期を迎えることになり、これに対処するかの如く、文部省大学設置基準の大綱化が呈示されました。これを受けて、多くの大学では、今後の大学生命の存亡をかけて体質、機構の変革を手がける機運が一挙に高まって参りました。本学においても例外ではなく、これまでの摸索の上に立って、工学部のハード分野とは異なるソフト分野を思考するに至りました。色々な案と、これをめぐる論議がなされた訳であります。学長の自然環境問題に対する強い関心と世情とが重なりあって、環境・情報に関連する学部を増設する方向が固められました。(参考までにご紹介いたしますと、平成4年9月9日、学長を理事長とする財団法人・広島地球環境情報センターが開設されております。)そのために、最もソフト分野に近い建築学科が改組転換のための最終的な対象となりました。

具体的に申しますと、建築学科を廃止し、デザイン分野を核とする改組転換により新学部とそれに所属する学科を新しく設置しようとするものです。このため建築学科の大部分の先生方は新学部に移籍されますが、残りの構造系を主体とする先生方は工学部において、土木工学科と対等に合併して大幅な教育課程

の改変を行い、新しい構想に基づく学科を構築することになります。(平成5年度は従来の名称で学生募集を実施しますが、平成6年度からは名称が変る予定であります。)このため、平成5年度からは建築学科としての学生募集は停止して、新たに環境学部・環境デザイン学科(募集定員180名)となります。一方、工学部・土木工学科(募集定員180名)では2年生からコース制をとり、半数の90名が建築工学コースにコース分けされることとなります。文部省は大学全体の入学定員(980名)の増は認めない方針ですから、建築系学生数は30%弱となり、まさに大学内学生数の1/3を建築分野で教育することになります。卒業生の皆様方には、建築学科の名称が消え去ることに対しての一抹の寂しさを覚えられる方も多いことと推察致しますが、むしろ細胞分裂的に領域が拡大したと受け止めていただければ誠に幸いです。五三会の皆様方、どうか四年後に巣立つであろう新分野からの諸君を、これまで同様に暖かく迎えてあげてください。

また、とくにお願いしたいことは、建築学科の学生があと三年間は工学部に在籍するというをお忘れなく。

### 3. 環境学部・環境デザイン学科の概要

本来、環境デザイン学科のみならず、工学部の新学科についても言及する必要があります。現在、工学部全体の動向を睨みながら平成6年度実施に向けて鋭意検討中ですので、ここでは平成5年度入学生に対する当面のカリキュラム(表-2参照、専門教育の

み)を掲載するにとどめます。これは、これからの人間生活のあり方と人間性豊かな都市像を考えるとともに、安全・快適かつ充実した人間生活空間を提供できる建築技術者の養成を目的としております。(建築工学コース)

さて、環境デザイン学科では、環境問題への配慮と情報処理技術の上に立って、これらを基調としながら、単なる建築デザイナーの養成だけでなく、インテリア・デザイナー、環境企画、建築生産関連といった広範囲な人材養成を行います。このため、カリキュラム構成にあたっては、新学部を設置主旨、新学科の教育理念・目標に沿いながら、可能な限り幅広い分野に対応できるよう、履修上のガイダンスを念頭に教育内容への配慮をしております。

カリキュラム(表-1参照)は大別して教養科目(21科目)と専門科目(71科目)の2つの科目群からなります。このうち、教養科目は人間形成科目と外国語科目の2つの科目群と総合講義からあります。また、専門科目は、環境デザイン履修上の基礎、あるいはその背景となる環境・情報関連の科目を主体とする専門教養科目(22科目)と、いわゆる専

門関連の7つの分野、すなわち環境デザイン基礎、建築計画、環境計画、環境デザイン、建築構造、デザイン実習・演習、その他の卒業研究を含めた関連科目(49科目)から構成されております。この7つの分野の中の最も重要な分野として環境デザインを位置づけておりまして、これらの分野の構成と順序の設定にあたりましては、「デザイン・プロセス学習」モデル(デザイン・プロセス図参照)を重視してその基礎としております。

履修単位につきましては、教養科目では41単位中15単位が必修、卒業に必要な単位数(以下要卒単位数)は25単位以上であります。専門科目では専門教養43単位中14単位が必修、また専門97単位中40単位が必修となっており、要卒単位数は101単位以上であります。従いまして要卒単位数は合計126単位以上で、現在の建築学科のそれに比較して4単位減となります。

卒業後の受験資格は、一級建築士、二級建築士、木造建築士およびインテリアプランナー等があります。

卒業後の進路は、総合建設業をはじめとして、建築・インテリア設計事務所、コンサル

タント事務所、建設住宅メーカー、公務員等がありますが、当然のことながら大学院進学もあり、新学科でも大学院修士課程の設置を考えております。

#### 4. 教育目標とカリキュラムの特色

環境デザイン学科は、学部の設置主旨のもとに、次のような教育内容を学科の教育理念・目標としております。すなわち、建築を中心とする関連領域を対象として、快適な環境の創出や良好な環境の維持という立場から物事を考察できる能力をもった人材養成を行うというものです。具体的に言いますと、これまでの芸術性に力点を置いたデザイナーの養成だけでなく、室内環境はもとよりのこと、建築物を含む住環境、地区・地域環境、都市環境などの面的な環境まで拡大した範囲での企画・計画・設計技術に重点を置くプランナー、コーディネーターなどの人材養成により力を注ごうというものであります。

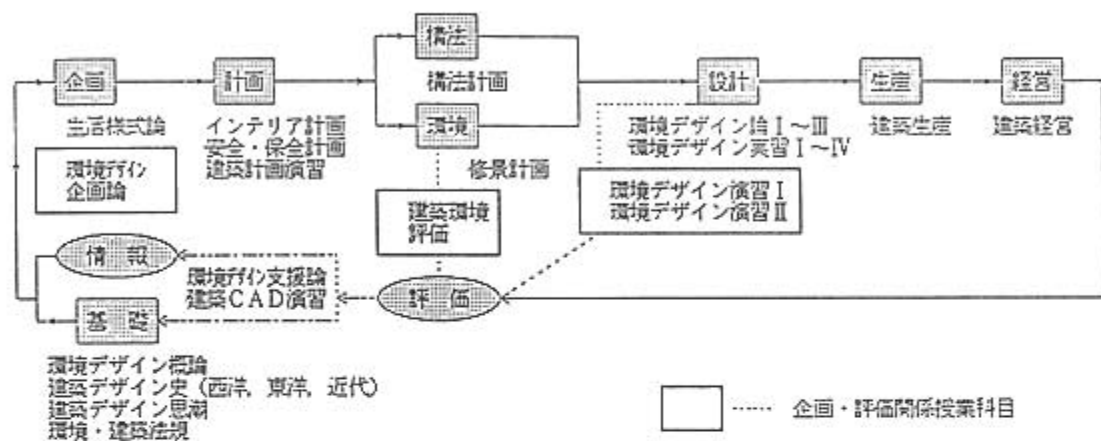
カリキュラムの構成については、概要で述べたところでありますが、特に、特色とて挙げたい諸点は次のとおりであります。

本学園の建学の精神、教育方針が教育の根底にあることは言うまでもありません。

まず、教育科目のうち、人間形成科目では自然と人間の調和のとれた社会を創出できる教養ある人格形成を目指します。外国語では実社会で役立つ英語の修得に重点をおき4年間を通じて継続的な積上げ方式の学習を目論んでおります。

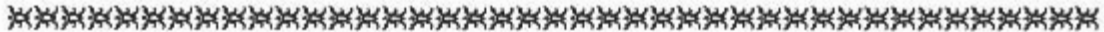
専門科目のうち、専門教養科目では、とくに新学科の背景となる環境に関連する科目および専門科目履修上の有力な手段となる情報関連科目を豊富に配置して、学習上の必要な基礎知識を涵養します。いわゆる専門分野では、デザイン・プロセス図にみられるように「企画」と「評価」の2つを大きな特色として、その関連科目としての「環境デザイン企画論」、「建築環境評価」、「環境デザイン演習」(設計作品に対する評価づけの訓練を行う)などが他大学類似学科にない大きな特色といえます。また、専門分野ごとに演習を設けて、着実にして活力のある教育を行うと同時に、複数教員の担当により、きめ細かい教育内容とその充実を計っております。

(広島工業大学工学部主任教授・新設学部設立準備委員会副委員長 椋代 仁朗)



デザイン・プロセス図





専 門 教 育 科 目																単位数及び週時間数合計																					
建築計画		環境計画				環境デザイン				建築構造				デザイン実習・演習				関連																			
E136S	E137S	E138S	E139S	E140S	E141S	E142H	E143S	E144S	E145S	E146H	E147H	E148S	E149S	E150S	E151S		E152H	E153H	E154S	E155H	E156S	E157H	E158S	E159S	E160S	E161H	E162H	E163H	E164H	E165H	E166S	E167S	E168S	E169H	E170S	E171H	
安全・保全計画	建築計画演習	都市・地域計画	建築環境工学I	建築環境工学II	建築設備学	環境計画演習I	環境計画演習II	環境デザイン企論I	環境デザイン企論II	環境デザイン企論III	建築生産	建築経営	環境デザイン支論	環境デザイン演習I	環境デザイン演習II	構造法計I	構造法計II	構造力学I	構造力学II	建築構造設計概論	建築構造演習	設計製図I	設計製図II	環境デザイン実習I	環境デザイン実習II	環境デザイン実習III	環境デザイン実習IV	造形演習	建築CAD演習	ゼミナール	特別講義	卒業研究					
	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1	5	54				
	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	86		
	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	140		
																	2	2	2																17		
																																				17	
				2				2											2																	32	
				2				2					2																								33
	4	2			2			2					4							2																36	
2		2		2		4	4				2			4						4							6				4		2			36	
											2																							2	6	10	
																																				9	

専 門 教 育										専 門 教 育																														
都市工学コース					建築工学コース					共 通																														
都市生活施設			都市交通施設		都市建築施設					都市情報システム				建設システム																										
T827S	T828S	T829S	T830S	T831S	T832S	T833S	T834S	T835S	T836S	T837S	T838S	T839S	T840S	T841S	T842S	T843S	T844S	T845S	T846S	T847S	T848S	T849S	T850S	T851S	T852S	T853H	T854S	T855H	T856S	T857S	T858S	T859H	T860S	T861S	T862S	T863S	T864H			
都市基礎施設概論	水理学I	水理学II	水工学III	河川工学	海洋工学	上下水道工学	水質工学	交通計画I	交通計画II	橋梁工学I	橋梁工学II	建築施設概論	建築計画原論	建築計画各論I	建築計画各論II	建築計画各論III	建築史概論	建築法規	建築構造設計I	建築構造設計II	建築構造設計III	建築構造設計IV	建築構造設計V	型性解析	都市/地域計画学I	都市/地域計画学II	都市防災システムI	都市防災システムII	都市情報ネットワーク	ターミナル計画	建設施工システムI	建設施工システムII	施工マネージメントI	施工マネージメントII	建設工法概論	建設工学演習I				
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	
													2																											
	2												2																											
		2												2																										
			2	2									2																											
					2										2														2	2										

環境学部 環境デザイン学科 教育課程表 (その2)

分野 コード 番 号 科目	教 養 教 育 科 目																				単位数及び週時間数合計						
	人 間 形 成 科 目										外 国 語 科 目																
	HY01H	HY02S	HY03S	HY04S	HY05S	HY06S	HY07S	HY08S	HY09H	HY10S	HY11S	HY12S	HY13S	HY14S	HY15H	EN01H	EN02H	EN03H	EN04H	EN05H		EN06H	EN07H	EN08H	EN09J	EN10J	SG01H
	宗 教 学	哲 学	歴 史 学	法 学(含憲法)	経 済 学	経 済 学	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論	日 本 文 化 論	言 語 学	数 学 概 論	地 球 物 理 学	地 球 物 理 学	生 物 学	地 球 学	体 育 学	英 会 話 I	英 会 話 II	英 会 話 III	英 会 話 IV	科 学 技 術 英 語 I		科 学 技 術 英 語 II	科 学 技 術 英 語 III	科 学 技 術 英 語 IV	時 事 英 語	T O E F L 講 座	総 合 講 座
単 位 数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	15
選 択 自 由		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2											1	1	2
計	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	41
開 講 期 間	1 前	2	2	2	2				2	2	2	2	2	3	1				1								19
お よ び 週 時 間 数	1 後	2			2	2	2	2			2	2			1												15
	2 前															1			1								2
	2 後															1											1
	3 前																1			1			1				3
	3 後																1										1
	4 前																		1				1				3
	4 後																		1						1		3

専 門 教 育										単位数及び週時間数合計		
共 通												
演習・実験・実習・設計												
T8665H	T8667S	T8668H	T8669H	T8670H	T8671S	T8672S	T8673H	T8674H	T8675S		T8677H	
建設工学演習II	建設工学演習III	建設工学演習IV	建設工学実験I	建設工学実験II	測量実習I	測量実習II	設計製図I	設計製図II	設計製図III	卒業研究	5	44
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2		17
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	5	161
												9
												16
					3							23
							3					35
2		3						3				32
2		3	3					3				35
	2			3					3	6		36
										9		13

## 「環境」

㈱LAT環境設計事務所 上之博之 (50年卒)

卒業生のみなさん元気で活躍されていますか。私は同窓会である五三会のお手伝いをして何年にもなりますが、今後とも五三会への御理解と御協力をお願い致します。

さて、工大に環境デザイン学科が出来るといことで「環境」について述べてみたいと思います。

### 1. 環境設計

私が勤めている会社は、平成5年7月で20周年にあたります。ですから約20年前から「環境」というテーマで営業を続けていることとなります。テーマが大きいの会社には造園、土木、林学、建築、デザイン等様々な出身者で構成され所員は40名を越そうとしています。営業範囲は西は鹿児島、東は岡山、北は島根、鳥取、南は高知まで行って計画、設計をしています。内容は、市森林公園の昆虫館等公園に関連する建築物を始め、アジア大会の会場となる広島広域公園の全体計画、第一球技場の設計、コンコース等外部空間の設計を行なっています。また、原爆ドーム周辺整備、平和大通り再整備、呉市役所前の蔵本通りの計画、設計を行なっています。以上は、すべて「環境」というテーマで常に周辺の状態を考慮して「緑のあり方」を考えることが共通しています。

### 2. 環境の時代

先日、世界規模で環境サミットが行なわれたように「環境」は地球規模のテーマとなっています。「自分だけよければいい」時代から共存共栄、まわりを見て生きる時代となっています。建築においても周辺環境を考慮した形、色、高さ、材料の選択が望まれます。周辺を考慮した建築は美しいはずであり「環境建築」と呼びたいと思います。

また、土木構造物も大きな変化がおりつつあります。車が走る道路から休めて楽しい道路が求められ、道の駅事業、休憩所のある道路修景、人が楽しく歩ける広い歩道と植帯を持った道路等が整備されています。また、川は治水を優先したブロック張り河川から、親しみやすい昔ながらの魚のいる川の復元、新設が検討されています。

### 3. 自然と郷土性

現在、私が最も美しいと思うものは、自然界の持つ曲線です。我々都市住民は、日曜等休みになると山、海、川等自然を求めて大移動します。これは自然が安らぎを与え美しいからです。

最近の建築は、アールを用いたものが多く見られるようになったと思います。建物の周辺は極力自然を構成しているアールで計画したいものです。

また、建物等の構築物は、どこに行っても同じではなく、日本らしさ、地方の風土、歴史等を取り入れた郷土性等をデザインの中に追求したいものです。外国人を案内できる空間づくりが必要であり、寺、神社だけでは淋しい感じがします。

最後に、我々ほもっと植物を愛し植物を知る必要があります。大きな公共施設の前に樹木が1本もないものを見ることがあります。それは、植物を知らないからだだと思います。ケヤキ、クロガネモチ、クス、コブシ、ハナミズキ、アメリカフウ等多数の高木、低木の特徴を知ることによりもっともっと楽しい空間づくりができると思います。





## 「環境雑感」

大 島 耕 司 (50年卒)

最近、「環境」という言葉を聞くと、いささか食傷気味である。ぞっとする嫌悪感さえある。「人間が生きること」こそが、環境破壊であるという人もいる。環境のために、リサイクル運動といってアルミ缶を回収している。一方このアルミ缶をアルミ精製するには、多量の電気エネルギーを消費し、熱を放出し、大気汚染は進むという。又、牛乳パックの回収と、いかにも奇麗ごとの様にみえるが、これもパックを溶す時、有害な物質が出るという。ジュースを飲まない、煙草を吸わない、何もしないのが本当に環境にとって良いのかも知れない。

自然を開発することは、何が何でもダメ(悪)という訳ではないし、自然保護を盾に反対ばかりしていても仕方がない。生き物の側から見た発想も大切だし、開発する立場と生き物の両方の接点を摸索する段階にも来ていると思う。

「環境」について考える時、単に〈自然環境〉だけでなく、〈社会的・経済的〉な環境も含んでいないと、無意味なものであるかも知れない。

又、「環境」を考える場合、「コミュニティ」という言葉が浮んでくる。この2つの言葉は、

よく似ている様な気がする。随分、昔、卒業研究で「コミュニティ」をテーマに選んだことがあった。私は、その時の結論として「コミュニティ」とは、結局「自分が、いま何をするかによって答えが出る」といった様な抽象的な内容のものであった。

「環境」を考える時、「コミュニティ」との共通点として、深く考えれば考えるほど似ている。まるで鏡の様に自分に跳返ってくる。近づけば近づくほど、近すぎて廻りが見えなくなり、離れば離れるほど、客観的や他人事の様になり、姿が現われてこない。

「日本の国のため」「地域づくりのため」社会共有の理想に進んでいくといった共同幻想的な自己愛が崩壊した現在、多くの人は個人的な自己愛を求めている。個人的な自己愛は、弱く、もろく、はかない。そして「山あらしジレンマ」に陥り、刺がある為、一定距離をおいてしか愛し、温め合うことができない。適当な距離をみつめることが大切になってくる様だ。

「環境」について具体的にどうこうしようということになれば、結局のところ「今、自分が何をするか」という原点に戻って来てしまいそうだ。

## 「女性の働く環境」

天 広 華奈子 (平成4年卒)

'92年春に就職してはや一年になろうとしています。学生時代から『女性進出のパイオニア的存在になるだろう』と言われており、世の中に出るとどんな反応が返ってくるのだろうと少し不安に思っていたのですが、社会は以外にもすんなりと私達を受入れてくれた様に思います。

今から思うと工大に入学した頃は様々なプレッシャーがありました。例えば食券一枚を買うにも奇異の目を感じたり、話掛けようとしても知らぬふりをされたり、たとえ話せたとしてもその人を残して皆が散っていったりと最初の2ヶ月くらいはなかなか馴染めず、私達女性は工大という男性社会の中では異端者なのだと痛感しました。そういう思いをしたこともあって、建設業界という男性社会に入っていくにあたりそれ相当の覚悟をしていたのですが、学生時代ほどのこともなく、むしろ女性の存在があたりまえとなっている様でした。

現場へ行くようになってみると、それとは別にいろいろ気付く事がありました。例えば男性の歩幅についていくにはタイトスカートは無理があるということです。物をよけて歩くにも、車の運転をするにも同じことが言えました。そこで私の場合、パンツスタイルに変えてみました。机に一日中向かっているという訳にはいかない仕事なので、スカートからパンツへの変更は大変に効果がありましたが、それと同時に今までと違うスタイルなので人の目を意識せざるを得ないことにもなりました。言い換えれば、それは変化に対するプレッシャーだと思います。

男性社会への女性進出が徐々に増え、社会はその存在を当然として受け入れる様になってきましたが、本当の意味で女性が働く為にはより働きやすい服装などはもとより、それを受け入れる環境作りこそが重要なのではないかと思います。

# 18th ITSUMIKAI COMPETITION

## 第18回五三会コンペ入選発表

### コンペ報告

第18回五三会建築設計競技は、福山大学工学部助教授として御活躍の小野泰先生に、課題の作成・審査をお願い致しましたところ、御多忙にもかかわらず快くお引き受けくださり、「広島シンボル—詩的住まいを求めて—」という課題を頂きました。

昨年10月12日に締め切りの日を迎え、広島工業大学15点、広島大学1点、福山大学21点、近畿大学2点、広島大学大学院建築意匠学研究室1点(広島工業大学OB)、福山大学技術助手1点(福山大学OB)、の計41点作品(42名)もの力作が寄せられました。また同月24日に実行委員立ち合いの下、小野先生の厳正なる審査の結果、別記の通り各賞が決まりました。

入賞者の皆さんおめでとうございます。

誌面の都合によりここでは入賞作品の紹介のみとならざるを得ませんが、応募された作品はどれも力作ぞろい、それぞれの作品に興味ある提案がなされており、惜しくも選にもれた方もそのレベルは高く、一生懸命に取り組んでいる姿が目につかぶようでした。ここに紹介するスペースがないことを非常に残念に思います。

表彰式・講評会は11月23日、広島工業大学大学祭期間中に執り行い、講評会では小野先生を中心に熱のこもった議論が交わされ有意義なものとなりました。

この表彰式・講評会は毎年行われ、学生の方々は他大学の学生、第一線で活躍しておられる審査員の先生との交流の場として、OBの方々には熱心な学生達との交流の場として恒例となっております。これからも益々実りのあるものになればと思っておりますので

なためにお気軽にご参加くださるようお願い致します。

小野先生にはこの設計競技にご理解頂き、大変お忙しいなか課題の作成・審査・講評と、貴重なお時間を割いて頂きましたことお礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。講評会では応募者ひとりひとりに熱心にご指導頂き、先生の建築に対する情熱に頭の下がる思いでした。

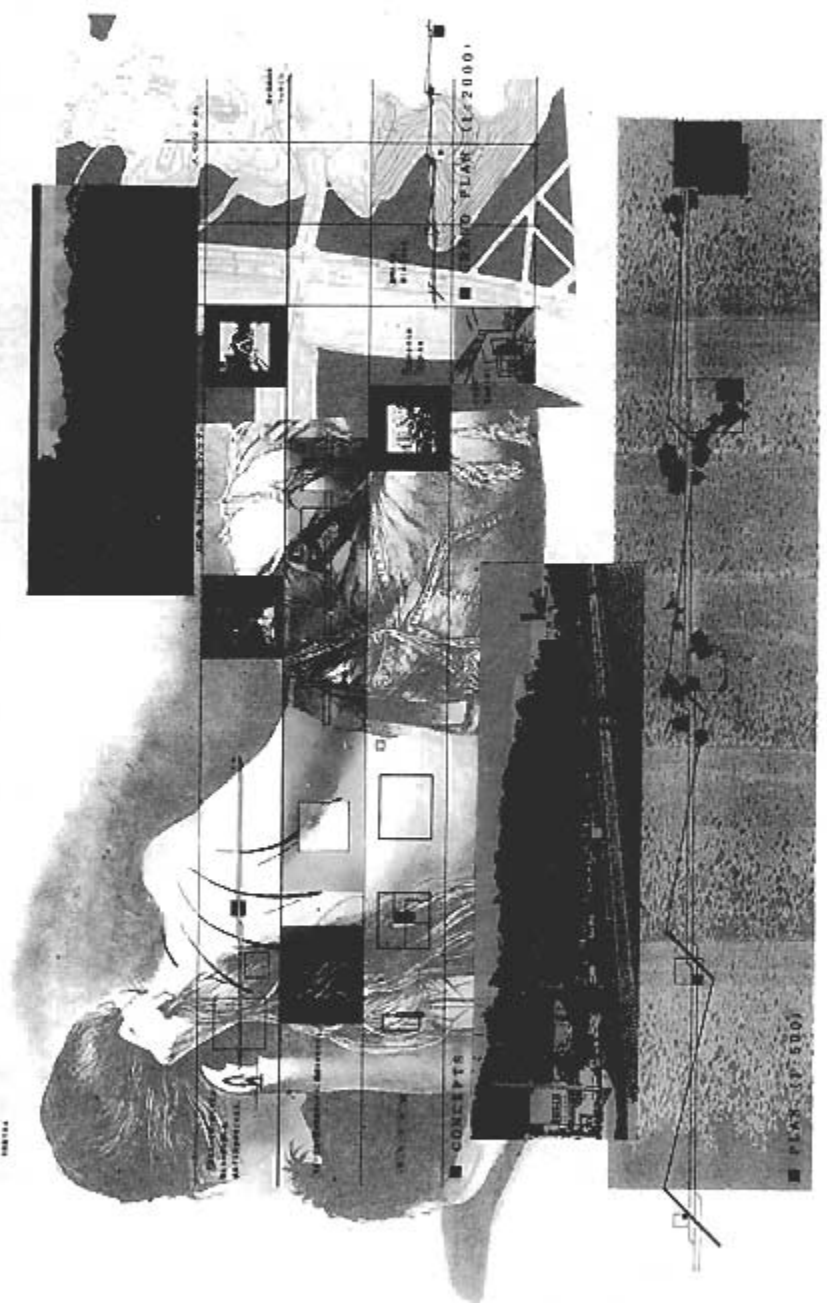
以上今設計競技の報告を終わりますが、今後共この設計競技がより発展していきますよう、皆様方の一層のご理解とご協力をお願い致します。

第18回五三会建築設計競技実行委員会  
盛岡隆治 藤井秀幸 山本重信  
岡田英治 有吉貴司 藤崎重則

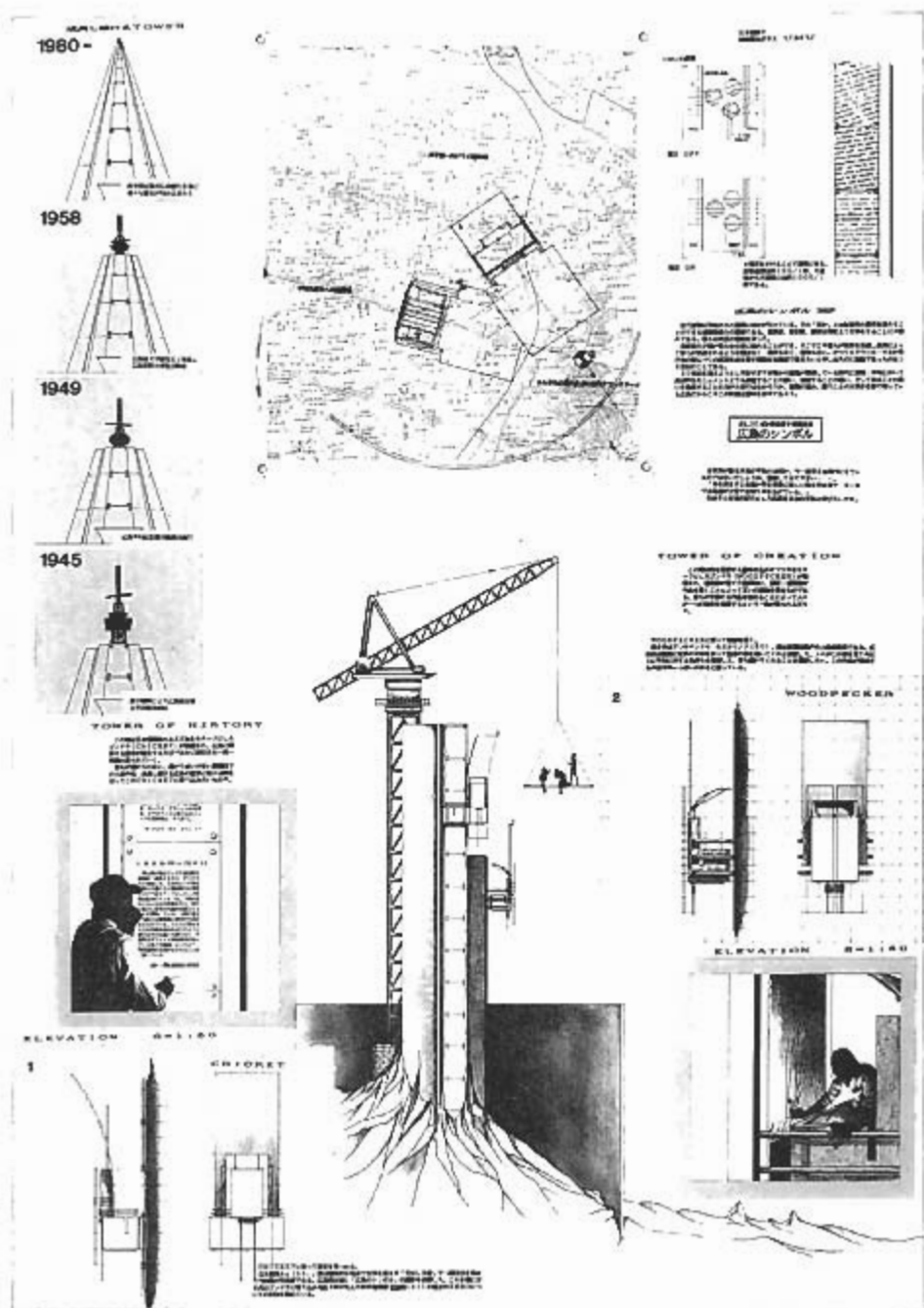
- 一等賞 迫谷 敏博  
(近畿大学工学部建築学科)
- 二等賞 河島 康  
(福山大学技術助手)
- 三等賞 望月 宏美  
(広島工業大学工学部建築学科)
- 三等賞 福村 浩司 川上 草一  
(広島大学工学部第四類)
- 佳作 古川 博典  
(広島工業大学工学部建築学科)
- 佳作 進藤 勝之  
(広島工業大学工学部建築学科)
- 佳作 稲井 哲也  
(福山大学工学部建築学科)
- 佳作 西尾 通哲  
(広島大学大学院建築意匠学研究室)

\*\*\*\*\*

THE OFFICE of Architecture  
**PIECE of PEACE**  
ARCHITECTURE  
SERVICES



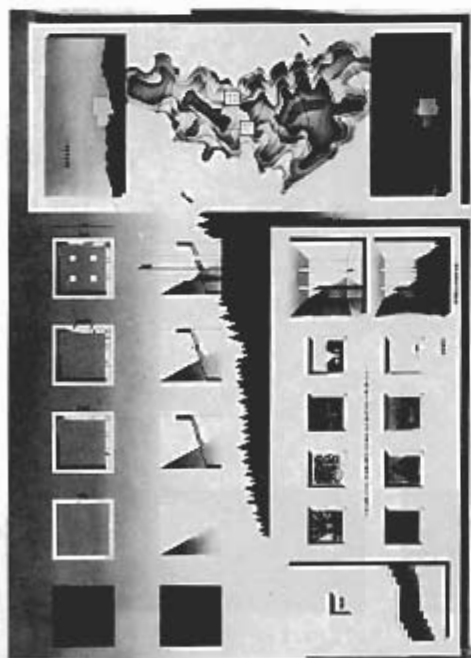
一等奖  
 追谷敬博 (近畿大学工学部建築学科)



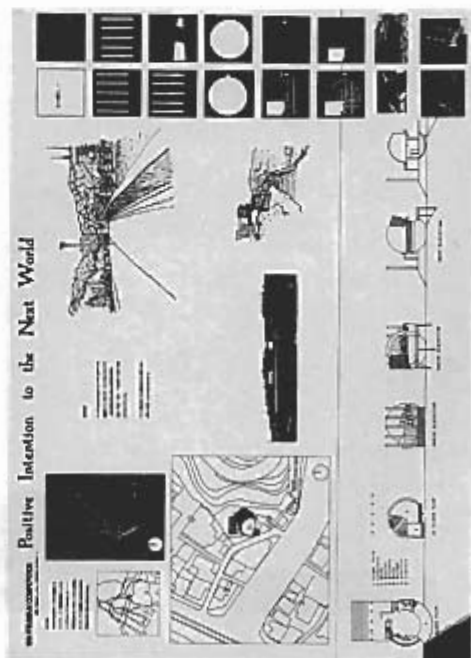
二等賞

河島 康 (福山大学技術助手)





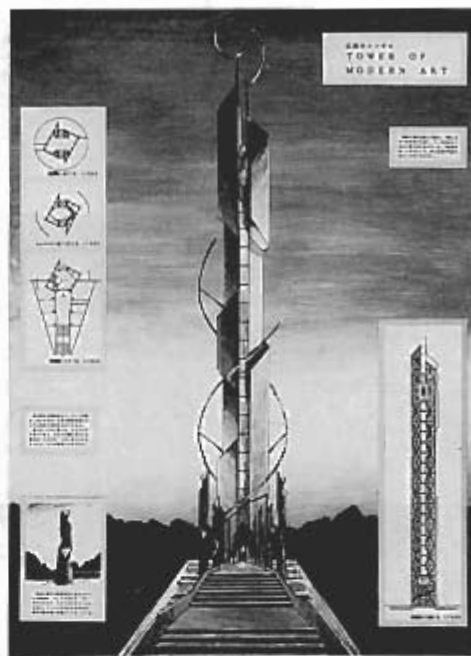
佳作 進藤勝之 (広島工業大学工学部建築学科)



佳作 吉川博典 (広島工業大学工学部建築学科)



佳作 西尾通哲 (広島大学大学院建築意匠工学研究室)



佳作 稲井哲也 (福山大学工学部建築学科)

福山大学工学部助教授 小野 泰

五三会主催のコンペも回を重ねられ、今回で18回を向かえられたことをお喜びいたします。

さて、今回の課題は、周囲を山並に囲まれた太田川の三角州に広がる、広島市の市街地の中に散在する幾つかの丘陵の中で、とりわけ、広島市の主要な都市軸の一つである100米道路の東端に位置し自然のランドマークとなっている比治山に着目したものです。

いうまでもなく、広島は、毛利氏が県北・群山から、その居城を当地に移してから中国地域の政治経済の中核都市として、軍都として、原爆の洗礼を、その来歴に持つ都市です。

都市は、出会いと発見の集団的な住まいとして、人々は建築の、自然の、その形態において視覚化された意味を共有することによって、共に住まってきたと言えます。

今日、我々は電子メディアによる、その生成過程の不可視な意味と、存在の基盤を欠いたヴァーチャルリアリティの錯綜する世界に直面しており、広島もその拉致外にあるとは申せません。このような状況が、はたして建築化、視覚化され得るものか、危惧しながら問いを發したのですが、建築家を志す若き諸君は、予測しなかった多様な方向へ誠実に展開してくれました。

審査は、五三会の諸氏とのコンセプトの解読の作業から始まり、最終的には、建築的思索にも優れた方向性が見いだされる作品として、入選4作品、佳作4作品を選定いたしました。選にもれた中にも印象に残る作品が多くあり、今後の活躍を期待いたします。

課題が広島市の歴史的、自然的固有性をいかに織り込むか、建築的未來へ向けて、現在の状況をどう展開するか、住まいの場としての都市、そのシンボル性をどう捉えるか、といった多岐にわたるため、作品の講評を行いながら、私見を述べたいと思います。

一等の迫谷案は、都市・建築を、建築的体験の根源的形式としての、進路と目標モチーフで捉え、そこに時間の流れの中で紆余曲折しながら自己の生きていく過程を重ね合わせ、建築、都市との実存的な関連を、シンプルな



形態で構成した作品といえよう。共有されるべき意味の生成されるプロセス自体を、道と障壁でもって象徴的に表現している。

二等の河島案は、近代建築がその運動の過程で喪失したものとして、建築家と芸術家の共同による建築の制作をテーマにしている。

広島市の歴史を壁に刻みながら、その未來に向かって建設する、常に、その途上にあるものとしての都市、建築の姿を表現している。

現代の大多数の都市は、歴史と自然の脈絡を離れ、その固有性を失ってきたと言えよう。

本来、都市のシルエットは、人々に共有されるべきものとしての、その都市固有の意味を予告し、了解させるものであろう。三等の望月案は、このシルエット、とりわけ比治山の自然的特質を、光の中に素直に浮かび上がらせることを意図した作品である。同じく三等の、福村、川上案は、広島市の都市空間、景観の特徴を直交格子に見だし、それをモチーフに、比治山に建つモニュメントを近代建築の延長上に位置づけながら、暗に、100米通りに展開する空間的、時間的均質性への反省を、



お祭りの場の演出により、日常と非日常の、場の重層性と空間的・時間的な分節を狙った作品。

四案の佳作のうち西尾案は、人工化され強制される時間に対して、広島歴史を支える自然的特徴である、潮の干潮による時間的分節を、現代の電子的メディアによって変容する月をシンボリックに視覚化し、自然の時の刻みに未来を託している。一方、稲井案は、透明性を装いながらブラックボックス化した現代建築に、道、和と言った未来を託すテーマを、彫刻的造形性で絡み合わせている。

同じく佳作の進藤案、吉川案の2案は一等案と同じ建築の原初的なものを狙った作品であろう。

進藤案は、壁、柱列、階段によって構成される原初的な建築空間の構築に、広島市の歴史を窓に埋め込み、それらを重層させながら、大地としての比治山に根づかせることにより住まいとしての場を構成しようとしている。

吉川案は、時代を越えて人々の精神に呼応するシンボル性を、イメージの原形ともいう球、立方体、列柱などの基本形態に求め、現在の建築的状況をそれらのコラージュにより表現しようとしている。

現在の我々が抱えている建築的状況が様々な方向において捉えられ、それらに果敢に挑戦する若き建築家諸君の作品に出会い、出題者の立場を越えて考えさせられました。ただ、作品に込めた建築的思索を、伝達する言語に貧しい作品が多く、これからの自己の建築を



展開していく上でも、是非、詩的あるいは概念的言語の開発が望まれます。

最後に、このような地域に開かれた建築活動に尽力される、五三会の活動に参加させて頂いたことを感謝いたしますと、ともに今後の御発展をお祈りします。



# 19.20th ITSUMIKAI COMPETITION

## 第19・20合併記念五三会コンペ 作品募集

メインテーマ「広島の街づくりを考える」PartB

課題 「未来への記憶」  
—被爆建物を考える—

### 〈主旨説明〉

昭和20年8月6日午前8時15分 この瞬間を境に広島歴史は大きく分断されてしまった。現在、広島市内に点在する被爆建物は、時間の不連続面を凍結したまま風化の一途をたどり、十分な論議も無く解体の波に洗われている。一方世論では具体的方策なしでの保存運動が先行し、建物所有者も壊すに壊せないままこれらの建物を死蔵しているのが現状である。今回は保存か解体かという二極対立を超えて、これらの原爆建物を凍結された時間から開放し、未来への記憶として現在に蘇らせることを目論見ている。従ってこれらの被爆建物の解体、保存、移築、改修、等はいっさい応募者の手に委ねられている。また、これらの建物の中から一つの建物を選ぶのも、全ての建物を対象にするのも応募者の自由である。今後の被爆建物問題に突破口を開くような創意溢れるコンセプトの提案を期待している。

### ■審査員

小原 誠 (広島大学教授)	篠部 裕 (呉工業高等専門学校助手)
小野 泰 (福山大学助教授)	水田 一征 (広島工業大学教授)
古谷 誠章 (近畿大学助教授)	村上 徹 (五三会会長代行・建築家)

### ■審査方法

二段階審査方式とします。第一段階では、入選作品に該当する応募作品を数点選出し、第二段階では、第一段階で選出された応募作品の中から各賞を決定します。

尚、第一段階の審査は非公開とし、第二段階の審査は公開審査とします。

### ■所要図面

設計意図を表現する、コンセプト、エスキース（パース、イメージスケッチ、模型写真等）、必要に応じて平面図、断面図、立面図をA1サイズ用の紙一枚の中に納めること。表現並びに用紙の種類は自由であるがパネル化しないこと。

### ■応募規定

応募資格：広島県内の大学・高専に在籍する学生及び卒業生。

応募締切：1993年8月2日 月曜日（当日消印有効）

提出方法：応募作品の裏面に住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号および学校名・勤務先名、所在地、電話番号を明記した紙を裏返しに貼付け、下記へ郵送してください。合作の場合も同様です。

提出先：第20回記念五三会建築設計競技実行委員会事務局

〒730 広島市中区舟入南3丁目  
19-26

Sky Attaic Nビル101

西原建築事務所内

TEL. (082) 232-5758

### ■その他

- ・応募作品は未発表作品に限ります。
- ・応募登録の必要はありません。
- ・質疑応答はいたしません。規定外の問題は応募者の自由決定とします。
- ・応募作品は返却いたしません。必要のある方は各自でコピーをとっておいてください。
- ・本設計競技入選作品の著作権は応募者に帰属しますが、入選作品に対してはその発表に関する権利は主催者が保有するものとします。また著作権の占有実施に対する優先交渉権は主催者が保有します。
- ・現存する主な被爆建物のリストがありますので、必要な方は120円切手同封のうえ、実行委員会事務局までご請求下さい。尚、ポスターを掲示してあります大学等には、その資料を送付いたしますので各大学等で入手することもできます。

### ■賞金

総額 800,000円

### ■主催者

広島工業大学建築学科同窓会「五三会」

広島工業大学建築学科

五三会コンペも数多くの応募作品に支えられ、今回で第19回を迎えることができました。これもひとえに応募者の皆様、並びに、各大学・高専建築学科各位の皆様方のご協力の賜物、とコンペ委員一同、深く感謝致しております。

この度は、広島工業大学建築学科創立30周年・五三会創立25周年という大きな節目にあたり、この五三会コンペも、第19・20回を合併し、第20回記念五三会コンペという形態で、記念事業に組み込まれることとなりました。

そこで、今回限り、賞金総額も大幅にアップして、総額80万円とし公開審査の形式をとっておりますので、これまでも増して多数のご応募を、お待ち申し上げております。



## (1992年度 卒業研究テーマ一覧)

### (指導教員 様代 仁朗)

- 河村 猛志 梁剛梁型鉄骨組架端部の塑性変形性能に関する実験的研究(繰返し履歴特性)  
 国重 勉 同上  
 寺西 和記 角形鋼管柱・H形鋼梁接合部の変形性状に関する実験的研究  
 松本 清隆 同上  
 三浦 達也 応力集中部をもつ部材の変形性能に関する実験的研究

### (指導教員 中尾 好昭)

- 穴風 博章 PC壁版のための締め固め法に関する研究  
 影山 正明 傾斜式ミキサーにより混練される高強度コンクリートの調合に関する研究  
 古川 耕治 セルフシールドアーク溶接における裏当て金付き突合せ溶接の溶接条件に関する研究  
 黒瀬 博之 セルフシールドアーク溶接法による立向上遮熱当金付き突合せ溶接実験  
 貝路 勇 列車による鉄道沿線地盤振動の計測  
 篠崎 特秀 法隆寺金堂主要構造の立体骨組構造解析に関する研究  
 玉置 康秀 衝撃力による機械基礎・地盤系振動の2次元模型実験・解析  
 西岡 誠治 クレーン吊荷の位置計測法に関する研究  
 西山 崇 鉄筋コンクリート造建物の床振動に関する研究  
 森田 浩志 下向き突合せ溶接実験  
 本間 健一 PC壁版付き鉄骨フレーム実大模型実験・解析  
 松岡 秀樹 PC壁版のせん断剛性解析に関する研究  
 松田 耕治 低水セメント比コンクリートの調合に関する研究  
 和泉 登 純ラーメン観物の構造計算精度に関する研究

### (指導教員 佐藤 立美)

- 井野 学・町田 道俊 特殊鉄筋を用いた新形状の補強金物によりRC有孔梁の開口補強に関する実験的研究  
 世羅 勇人・萩岡 潔 薄肉有孔鋼板を用いた鉄筋コンクリート有孔梁の開口補強に関する実験的研究  
 竹中 基・正田 雄高 新形状の簡易補強金物による鉄筋コンクリート有孔梁の開口補強に関する実験的研究  
 田中 誠一・藤原 哲也 鉄筋コンクリート梁のひびわれ制御に関する基礎研究

### (指導教員 丹羽 博亨)

- 山藤 一茂 設計 WOOD SCENERY  
 鈴川 芳弘 論文 徳淵寺の建築と伽藍配置  
 高橋 芳明 論文 三仏寺の建築と伽藍配置  
 広沢 英樹 設計 THE INSTITUTION IN TECHNIQUE STAGE TANAKA  
 宮本 広 論文 清水寺の建築と伽藍配置  
 及川 清一 論文 円教寺の建築と伽藍配置  
 中田 義秀 論文 観世音寺の建築と伽藍配置  
 木村 大輔 論文 清水寺の建築と伽藍配置  
 藤原 正圭 論文 法隆寺金堂の構造解析  
 山野井俊宏 論文 鶴林寺の建築と伽藍配置

### (指導教員 水田 一征)

- 梅崎 芳憲 設計 AQUATECTURE  
 河添 光良 設計 U-C SQUARE-Universal Culture-

- 吉川 博典 設計 こども工房  
 木下 真 設計 スポーツ施設-人間性の獲得-  
 黒瀬 高範 設計 The Symbol of "Saka-machi"  
 高田憲一郎 設計 空間思索  
 滝木 路也 設計 舞台-「集い、そして感動が生まれる。」  
 益田あゆ子 設計 COTTON KIBUN DE  
 -愛想のいいまち-  
 松本 寛之 設計 祝祭都市へ-文化活性の場-  
 望月 宏美 設計 べんたごんの小学校

### (指導教員 藤原 道正)

- 井山 博之 スポーツ動作時の代謝熱量に関する研究  
 河本 雄二 同上  
 浦野 智 海抜によるTAC温度の変化(太平洋側・冷房期)  
 川西 祐一 海抜によるTAC温度の変化(太平洋側・暖房期)  
 三田村博史 海抜によるTAC温度の変化(日本海側・冷房期)  
 横田 康宏 海抜によるTAC温度の変化(日本海側・暖房期)  
 岡田 圭史 事務作業時の最適温度の予測方法に関する研究  
 杉山 順史 同上  
 穴戸 政夫 生産施設における作業者の代謝熱量に関する研究  
 村上 賢良 同上  
 鳥生 秀樹 緯度によるTAC温度の変化

### (指導教員 森保 洋之)

- 江頭 秀範 独立住宅における公・私空間の関わりに関する研究(論文)  
 滝森 由美 独立住宅における公的空間の空間構成に関する研究(論文)  
 小瀬 宏治 建築形態の視知覚的把握に関する研究-集合住宅のプランとファサードについて-(論文)  
 土竹 哲也 戸建感成の観点よりみた集合住宅の計画に関する研究-作品事例の分析-(論文)  
 桐本 朗 戸建感成の観点よりみた集合住宅の計画に関する研究-居住者意識の分析-(論文)  
 本坂 直美 学校と地域教育関連施設の連携に関する計画的的研究(論文)  
 田中 元清 丘陵住宅地計画に関する研究(論文)  
 平井 邦枝 民間活用方式による地域・地区開発に関する研究-住宅地開発を中心にして-(論文)  
 岸本 巧 GREEN FRONT VILLAGE  
 "ARCADIA"(設計)  
 重元 紀子 ARCADIA-文化・芸術の果へむけて-(設計)  
 向田 祥崇 通り-その視覚-(設計)

### (指導教員 坂田 泉)

- 小野 泰徳 地方の本陣に関する考察(買茂郡を中心に)  
 降仲 隆伸 広島県加計地方の民家  
 川上 浩治 岡山・吉備津神社の建築  
 河本 和裕 大島に映える海洋リゾート施設  
 中野 秀和 蔵島神社外宮地御前神社の拝殿について  
 宮本 新吾 西洋風建築の窓及び玄関まわりの意匠について  
 荒谷 伸一 呉の森-瀬戸内海再考-  
 藤原 靖弘 明治期における洋風建築の外装についての一考察

**(指導教員 天満 祥弥)**

- 新井 清二 美術館のあかり  
 上野 隆二 建築経済に関する統計調査—建築費の時系列と物価指数との比較—  
 佐々木利宏 文化センターの計画  
 水松 美玲 宇高水鉄園—海に感謝します—  
 野田 雅夫 都市景観における建築外部の色彩分布に関する研究  
 服部 光 吉野ヶ里遺跡考古学博物館の計画—故郷への回帰—  
 北方 武 建築外装の劣化の調査研究  
 前田 明紀 コミュニティエリア—小学校計画—  
 山崎 浩司 生涯学習センター  
 山本 篤志 集合住宅居住者による共同と共生—芸術や学問だけが文化ではない—

**(指導教員 高松 隆夫)**

- 石松誠一郎 繰返し荷重を受ける弱パネル型角形鋼管柱・目形鋼はり接合部の弾塑性挙動に関する実験的研究  
 岡山 英二 同上  
 重村 健吉 同上  
 多賀 豊 同上  
 南郷 裕志 同上  
 丸久 新市 同上  
 小田 明美 柱・はり接合部の弾塑性挙動を考慮した鉄骨骨組構造解析法に関する研究  
 耳道 千里 同上  
 四鹿 康隆 同上  
 小野 健二 軸方と2軸曲げを受ける目形鋼柱の最大耐力とエネルギー吸収能力に関する研究  
 中田 勝英 同上  
 木本 博昭 有孔目形鋼はりの最大耐力に関する実験的研究

**(指導教員 佐藤 洋)**

- 石田 誠 コミュニティパーク(Dととりと遊びの空間)  
 井上 千夏 踏絵  
 植田 知久 依代  
 川尻 麻子 自然 風遊 建築  
 坂 和博 広島島の臨い  
 坂之上 康晴 ル・コルビュジェの建築形態の幾何学的分析 その1 (前期)  
 清水 由明 同上 その2 (後期)  
 進藤 勝之 生々 (せいせい)  
 日尻 吉昭 水辺のそばで—視察空間の創出—  
 山本 三朗 Self-Sown—自己再生—  
 橋山 美樹 都市の渦  
 和田 一郎 文化・自然そして都市—文化活動の場—  
 本多 正 —ネオ・ミナト—松山港周辺再開発

**(指導教員 菅原 辰幸)**

- 赤星 秀晃 五日市中央通りの歩行者天国整備に関する研究  
 岩崎有一郎 五日市中央通りの街並み形成に関する研究  
 黒田 泰史 華場—天と地のあいまいな空間 (設計)  
 田中 和知 高齢者福祉センター (設計)  
 吉上 幸治 総合レジャーセンター (設計)  
 増田 隆宏 根菜三昧の館 (設計)  
 坂本 順 SPORTS YOUTH HOSTEL (設計)  
 小西 達治 Pleasure Island MOTOUJINA (設計)  
 近藤 誠 広島市の用途地域指定変更による建物の変化について

**(指導教員 西川 加穂)**

- 内藤 謙吾・松田 繁 ワンルームマンションに関する研究(論文)  
 岡本 敏孝 生活の豊かさを求めて—コミュニティ空間のある集合住宅—  
 後藤 勝宣 生活の豊かさを求めて—多世代交流型集合住宅—  
 寺戸 清・村本 浩恵 みんなで湯来に住もうよ—高齢者を配慮した中層マンション—  
 藤井 康典・四井 英人 昔の路地裏的集合住宅  
 二村 英明 子供の視点になった集合住宅  
 前田 秀 府中町に建つミックスコミュニティ設計  
 新苗 浩司 老人と若者のためのワンルームマンション  
 西本 賢一 シルバーマンションの設計

**(指導教員 濱田 誠良)**

- 井上 晋 開口部を有する建築物の建築物周辺空間静圧分布に関する実験的研究  
 河面 輝 市街地における建築物周辺気流速度分布に関する実験的研究  
 中下 篤治 市街地における建築物周辺地上面圧力分布に関する実験的研究  
 水瀬 道孝 市街地における建築物周辺空間静圧分布に関する実験的研究  
 西山 圭吾 市街地における建築物壁面風圧分布に関する実験的研究  
 長沖 繁 市街地上の乱流境界層形成に関する実験的研究  
 向 彰彦 開口部を有する建築物の建築物周辺気流速度分布に関する実験的研究  
 三戸 章郎 開口部を有する建築物の建築物壁面風圧分布に関する実験的研究  
 山田 英治 市街地上の乱流境界層形成に関する実験的研究

**(指導教員 手越 義昭)**

- 福原 由希 意匠設計におけるプロセスの整理とリファレンスモデルの研究  
 鮫江 直子 SKETCHPADを使った建築設計支援に関する研究  
 篠沢 哲也 建築設計支援システムに取り入れる部材属性に関する研究  
 高橋 鉄治 建築設計支援システムの対象表現技術に関する研究  
 川本 康雄 インテリジェントCADの構造設計支援に関する研究  
 上山 博司 統合化設計支援システムの構築法に関する研究  
 松本 浩 オブジェクト指向プログラミングによる統合化設計支援システムの構築法  
 水野 真一 建築設計支援インテリジェントCADにおけるパラメトリック部材の表現法に関する研究  
 下谷 文子 構造設計支援を対象とした属性モデルの構築法の研究  
 曾田美重子 構造設計におけるプロセスの整理と属性制御知識の研究  
 夏山 一典 CADを用いた建築設計におけるコンピュータラシーの影響に関する研究  
 高木 良二 設計支援システムの発展の歴史に関する研究 (設計支援システムの実現技術から見た発展の歴史の研究)  
 金本 哲也 設計支援システムの発展の歴史に関する研究 (設計支援システムの方法論から見た発展の歴史の研究)

# 1992年度卒業生就職先等一覧表

## 〔エンジニアリングコース〕

氏名	事業所	氏名	事業所
穴新	章二	中永	英孝
石井	清一	田瀬	道裕
井野	誠一	郷岡	裕誠
井上	学智	西山	誠丰
井上	之二	西山	浩
上野	博隆	田岡	浩
上浦	博	原岡	哲健
岡田	史二	間田	雄道
岡小	英二	田岡	秀耕
小野	健二	田本	清新
影広	正明	久浦	達真
金本	哲麻	水三	博千
川尻	祐一	田耳	賢良
川西	猛志	村横	康隆
河本	康雄	四河	盛裕
河本	雄二	重谷	正広
吉本	治昭	野村	和登
本重	勉之	泉高	治大
黒瀬	之勇	崎中	繁典
具路	勇輝	沢長	彦郎
河木	宏吾	谷美	治
佐重	政夫	山重	
穴重	秀也	田重	
篠重	也子	木重	
篠重	史人	賀重	
下世	子二	中重	
曾高	豊基	中重	
多竹	一秀	設重	
田玉	記樹	西重	
寺鳥	秀篤	生重	
中		下重	

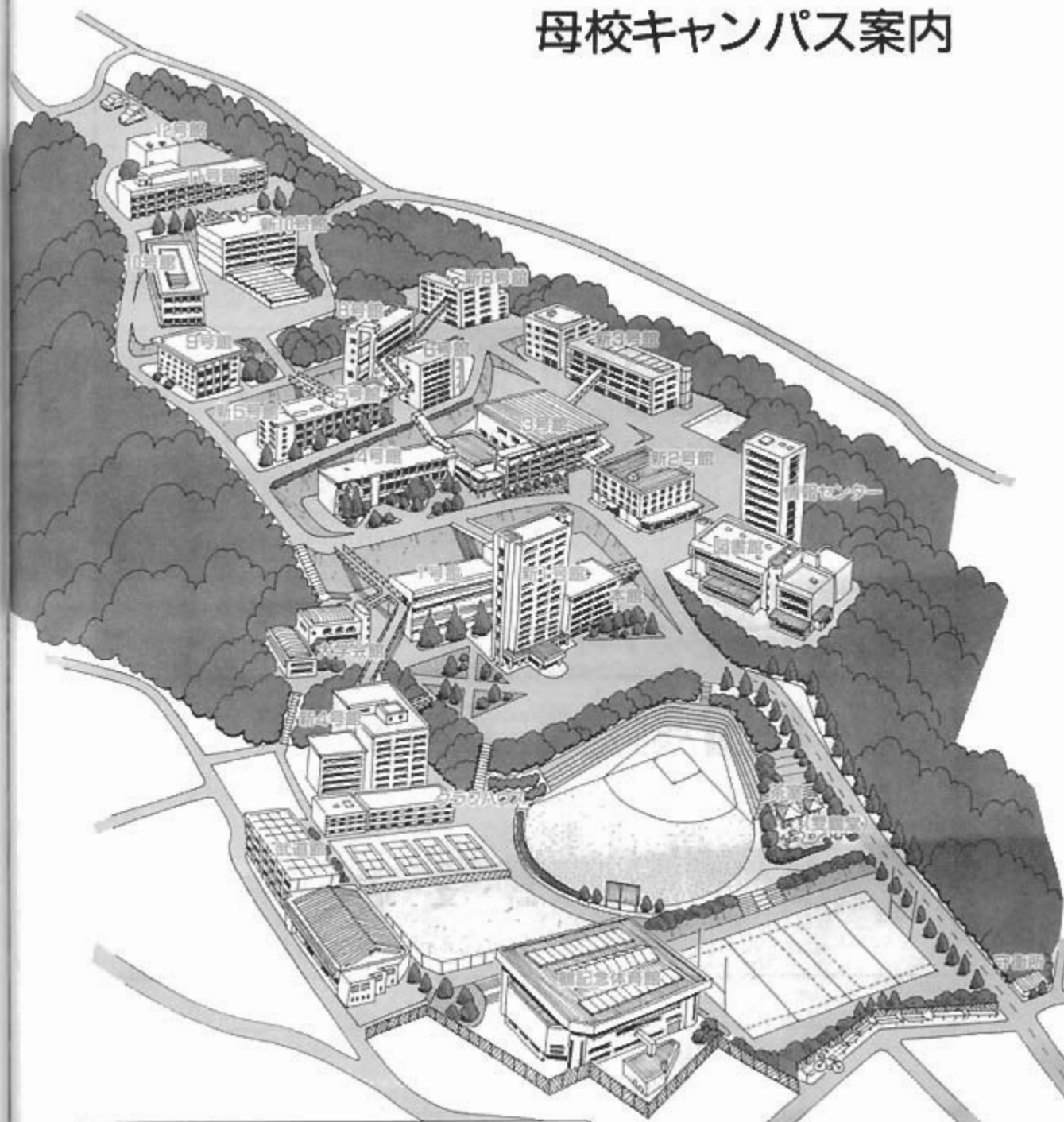
[デザインコース]

氏名	事業所	氏名	事業所
江頭秀範		野田雅夫	
赤星秀晃		服部吉光	
有田千誠		日尻井邦枝	
井上有一		平沢英樹	
岩崎哲也		広原康典	
上竹哲久		藤原方武	
植田知子		北前田紀秀	
梅江直孝		蛇本敏子	
岡本謙治		岡本隆徳	
小野泰伸		小井上治	
小川良		川添光弘	
河本裕美		河本直巧	
岸本典真		吉川博明	
木下真明		木瀬高範	
桐黒弘宣		黒後博晴	
坂之茂子		坂上紀之	
山重元明		山藤勝之	
清進鈴		高田芳一	
高橋明也		滝本路也	
田中清清		田中謙秀	
寺内玲美		内中森英	
水川流二			
		田部尻井	
		福原井	
		藤原方	
		北前田	
		前田田	
		益田田	
		松田田	
		松木田	
		宮木田	
		宮本月	
		向村崎	
		望山本	
		山山本	
		吉井上	
		四井山	
		脇和田	
		和村藤	
		及田苗	
		本近田	
		新中西	
		藤原田	
		前川田	
		増野井	
		山多	
		木谷	
		荒内	
		坂武	
		小近	
		藤原	





# 母校キャンパス案内

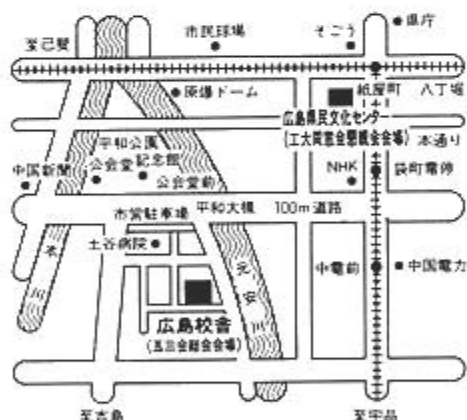


- 電子工学科……新1号館
- 電気工学科……新10号館
- 機械工学科……6号館
- 土木工学科……新2号館
- 建築学科……新3号館
- 経営工学科……新4号館
- 一般教育……新4号館
- 基礎教育……新5号館
- 電算センター……情報センター1F
- 工作センター……8号館
- 工学研究所……11号館
- 〈●学園本部…新1号館〉
- 〈●大学事務局…本館〉

# 第25回(平成5年)総会のお知らせ

- 日 時 平成5年4月24日(土曜日)
1. 五三会総会……午後1時30分
  2. 工大同窓会……午後4時
  3. 懇親会……午後5時00分(県民センター)
- 場 所 五三会総会 広島市中区中島町5-7鶴学園広島校舎 TEL (082) 249-1251(代)  
工大総会・懇親会 広島市中区大手町1丁目5-3  
県民センター TEL (082) 245-2311(代)
- 内 容 建築学科同窓生五三会員全員が参加し、建築学科各教職員の参加を求め、五三会活動報告と、会計発表を行ってのち、酒と豪華な料理で、昔話や同業としての話で親睦をはかる。
- 会 費 5,000円 なお、懇親会は、工大同窓会と一緒にいきます。

## (案 内 図)



## 交通機関

- △広島駅より  
広電バス-100米經由空港行き・平和公園下車  
広島バス-吉島営業所行き・平和公園前下車
- △バスセンターより  
市内電車-宇品行き・袋町又は中電前下車  
(100米道路路平和大橋西詰南へ50m)
- △広島港より  
市内電車-紙屋町經由広島駅行き、又は己斐  
行き(中電前又は袋町下車100米道  
路平和大橋西詰南へ50m)
- △広島空港より  
広電バス-100米經由広島駅行き・平和公園  
前下車



# 五三會

# 活動報告



幹事長 下田卓夫 (50年卒)

「五三會」会員各位様におかれましては、  
益々の御活躍のことと存じます。

本年度は「五三會」が誕生して、四半世紀  
を迎え、建築学科創立30周年記念事業と、五  
三會創立25周年記念事業をあわせて行なう年  
となりました。現在、建築学科の卒業生は、  
本年度を含め約4,800名程度に達しましたが、  
皆様御存じの様に、本年度より建築学科の新  
入生が無くなり、環境学部として新たな出発  
へと移行されます。

「五三會」は、この大きな変革にあたる年  
において、創立記念事業が催されることは、意  
義深く感じると共に、会員各位の親睦と、将  
来への発展に貢献すべく、益々の広がりをも  
った存在として、活動展開を求められている  
と感じます。平成4年度の主な五三會活動は、  
以下の通りであります。

●「五三會コンペ」 福山大学の小野先生を審  
査委員に迎え、県下の在学生を中心とした多  
数の意欲的な作品が寄せられ、入賞者はもと  
より、ハイレベルで実り多きコンペとなりま  
した。有難うございました。

●「記念事業実行委員会」の設立 建築学科創  
立30周年記念事業と併せて行なうことにな  
り、合同の「記念事業実行委員会」が設立さ  
れました。

記念事業の内容について、御報告致します。

記念誌の発刊 建築学科30年・五三會25年の  
歩み A4版200ページ、一部カラー

記念祝賀会 平成6年5月21日(土) 全日空ホテ  
ル 建築学科、五三會の発展を祝い相互の親  
睦を図る。イベント等他。

記念コンペの開催 (19号・20号合併)

課題「未来への記憶」

～被爆建物を考える～

賞金総額80万円、複数審査員、公開審査。

五三會会員名簿の充実と名簿の発刊

各年度の氏名、住所、勤務先をわかりやす  
く整理、製本化し発刊する。

今後、記念事業の成功を目指し、会員各位  
様に多大な御協力と、御支援が必要となりま  
す。尚一層の御支援、御参加をお願い致します。

## 平成4年度活動報告

1. 会報誌「五三會」第20号の発刊
2. 第18回五三會コンペの実施
3. 記念事業実行委員会の設立
4. 五三會幹事会組織の充実
5. 五三會会員増加運動
6. 五三會会員住所録の整理

## 平成5年度役員

- (会 長) 三上明夫 (㈱KAZI建築設計工房)  
(副 会 長) 森田洋生 (広島市役所)  
上之博文 (㈱LAT環境設計事務所)  
(会 計) 村上憲弘 (㈱青木設計事務所)  
松本孝志 (広島市役所)  
(会計監査) 下 健蔵 (広島県庁)  
三宅智之 (広島県庁)  
(書 記) 梶山孝之 (梶山設計)  
中島伸夫 (㈱LAT環境設計事務所)  
(幹 事 長) 下田卓夫 (㈱アーバンフレーション)

五三會は、昭和58年度から終身会費制を導  
入しており、会員のみ会報を発送させても  
らっています。会費未払いの方及び未加入の  
方は早急に手続きをお願いしたいと思います。  
下記五三會事務局へ御連絡下されば振込用紙  
をお送りさせていただきます。

## 〔五三會事務局〕

広島市佐伯区五日市町三宅二丁目1番1号  
広島工業大学建築学科菅原研究室内  
〒731-51 TEL (0829)21-3121

# 五三会収支決算報告

## 平成3年度収支決算報告書

◆収入の部			(単位 円)
繰越金			3,584,974
新会員会費			770,000
広告料			1,020,000
雑収入			10,871
合 計			5,385,845

◆支出の部			(単位 円)
印刷費			697,773
郵送費			118,227
会議費			60,809
銀行送料			0
郵便局振替手数料			0
コンベエ			279,264
在学生援助費			0
バイト費			24,000
消耗品等雑費			288
雑費			79,140
繰越金			4,126,344
合 計			5,385,845

## 平成4年度収支予算 (案)

◆収入の部			(単位 円)
科目	小科目	金額	摘要
会費収入		750,000	75名×10,000
	新会員会費	750,000	
活動収入		1,020,000	
	広告料	1,020,000	
雑収入		11,000	
	利子収入	11,000	
積立金取崩収入		0	
	積立金取崩収入	0	
繰越金		4,126,344	
	終身会費基金	4,126,344	
合 計		5,907,344	

◆支出の部			(単位 円)
科目	小科目	金額	摘要
管理費		470,000	
	総会費	100,000	
	会議費	150,000	
	バイト費	50,000	
	消耗品費	50,000	
	備品購入費	50,000	
	印刷費	40,000	
	通信費	20,000	
	雑費	10,000	
活動費		1,270,000	
	会報発刊費	920,000	会報発刊費内訳
	コンベエ	300,000	印刷費 650,000
	学術文化費	50,000	郵送費 270,000
			(900部×300)
予備費		800,000	
	予備費	500,000	学生部会助成金
		300,000	記念事業経費
積立金		2,750,000	
	積立金	2,750,000	
繰越金		617,344	
	繰越金	617,344	
合 計		5,907,344	

# 広島工業大学建築学科同窓会 「五三会」会則

## 第一章 総 則

- 第 1 条 本会は広島工業大学建築学科同窓会「五三会」と称する。
- 第 2 条 本会は本部を広島工業大学建築学科内に置く。但し、総会で必要と認めた場合に支部を置く事を得る。
- 第 3 条 本会は会員相互の交誼を厚くし、かつ母校建築学科の発展に貢献することを目的とする。
- 第 4 条 本会は前述の目的達成の為に下記の事業を行なう。
- (1) 集 会
  - (2) 会員相互の連絡並びに共助に関する事
  - (3) 会誌及び会員名簿の発刊
  - (4) 母校建築学科に対する精神的、物質的援助
  - (5) その他本会の目的達成に必要な事

## 第二章 会 員

- 第 5 条 本会は下記の者を以て組織する。
- (1) 正 会 員 広島工業大学建築学科卒業生のうち会費を納入した者
  - (2) 準 会 員 正会員以外の広島工業大学建築学科卒業生
  - (3) 学生会員 広島工業大学建築学科在学学生
  - (4) 特別会員 母校職員及び旧職員
  - (5) 名誉会員 本会の発展に貢献し、名誉会員としてふさわしいと総会で認められた者

## 第三章 役 員

- 第 6 条 本会は下記の役員を置く。
- |           |           |           |     |
|-----------|-----------|-----------|-----|
| (1) 名誉会長  | 置くことができる  | (2) 会 長   | 1 名 |
| (3) 副 会 長 | 2 名       | (4) 会 計   | 2 名 |
| (5) 会計監査  | 2 名       | (6) 幹 事 長 | 1 名 |
| (7) 幹 事   | 若干名       | (8) 書 記   | 2 名 |
| (9) 評 議 員 | 各卒業年度に若干名 |           |     |
- 第 7 条 本会の役員は次の方法で決める。
- (1) 名誉会長は総会をもって推す。
  - (2) 会長・副会長・幹事・会計・会計監査・書記・評議員は総会で正会員の中から選ぶ。
  - (3) 幹事長は幹事の中から互選する。
  - (4) 幹事は総会の議決により正会員の中から委嘱する。
- 第 8 条 各役員はそれぞれ次の任務をもつ。
- (1) 会 長 本会を代表し会務を統べる
  - (2) 副 会 長 会長を助け支障がある時は代理する
  - (3) 会 計 会計事務に当る

- (4) 会計監査 会計を監査する
- (5) 幹事長 会務を主宰する
- (6) 幹事 会務を処する
- (7) 書記 書記事務に当る
- (8) 評議員 会務を評議する

第 9 条 役員任期は一年とし再任をさまたげない。但し欠員は役員会にはかり補充し、これによって就任した者の任期は前任者の残りの期間とする。

#### 第四章 顧問

第 10 条 この会に顧問若干名をおく  
(1) 顧問は総会の議決により適任者を委嘱する  
(2) 顧問は会の諮問に応じる

#### 第五章 会議

第 11 条 会議を分けて定期総会、臨時総会、役員会及び事業委員会とする。  
第 12 条 総会は最高の議決機関で毎年 1 回開く。臨時総会は役員会が必要と認めた時会長が招集する。  
第 13 条 総会は次のことを決める。

- (1) 会則の変更と改正
- (2) 決算及び予算
- (3) 役員改選
- (4) その他重要な事

第 14 条 役員会は会長が必要と認めた時招集し、次のことを決める。  
(1) 総会に附議する原案  
(2) この会の運営に関する諸事項  
(3) 事業委員会の組織  
(4) その他緊急事項の協議

第 15 条 事業委員会は必要に応じて幹事により組織し、第 4 条に掲げる事業についてその事務を処する。

第 16 条 会議の議決は会員の参会者の過半数をもって決定し、賛否同数の時は議長がこれを決定する。

#### 第六章 会計

第 17 条 この会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をあてる。  
(1) 会員は入会金と終身会費として、入会時 10,000 円を納入しなければならない。  
(2) 学生会員は在学期間の会費として 3,000 円を納入しなければならない。

なお、学生会員の会計は本会計より独立させる

第 18 条 この会の会計年度は 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終る。

#### 第七章 委任事項

第 19 条 この会則に定めのあるもののほか、必要な事項は役員会においてこれを定める。

#### 付 則

終身会費については、昭和 58 年度から施行する。

## 編集後記

会誌発行にあたり、御寄稿下さった方々、また、多数のスポンサーの方々にお礼を申し上げます。

今回は、特にテーマを環境として原稿をつのりました。

会員からの寄稿が、一つの大きな情報です。近況、作品、紀行文、意見、趣味等、何でもよろしいですから事務局までお寄せ下さい。お待ちしております。

尚、寄稿下さった方には、五三会より記念品を御送り致します。

### 「五三会」第20号 編集委員

中塚晴夫・金堀一郎・金川 豊・藤井 洋  
松田智仁・内本康雄・峰本美佐  
三戸敬子・本山慈子

### 〔連絡先〕

#### 五三会事務局

広島市佐伯区五日市町三宅二丁目1番1号  
広島工業大学建築学科菅原研究室内  
(〒731-51) ☎0829-21-3121代



### 広島工業大学建築学科同窓会誌 「五三会」第20号

編集責任者	中 塚 晴 夫
発行責任者	三 上 明 夫
企画・製作	ア ク ト 企 画
発 行	平成5年3月24日